

検査から見えてくる子どもの ミカタ（見方・味方）



総合教育センター
特別支援・相談課
藤本 洋美



検査の「ミカタ」を変えてみる



実態把握（見方）

目の前の子どもを見て



理解と支援（味方）

得意と苦手を含めた



検査の「ミカタ」を変えると、子どもの「ミカタ」も変わる

2つの「ミカタ」について

① 検査についてミカタ(見方)を知ろう!



② 結果を活かして、子どものミカタ(味方)になろう!



① 検査についてミカタ(見方)を知ろう!

- 心理検査はさまざま
- 知能、発達、パーソナリティ、認知機能や心理状態などがどのようなものかを知り、個人や集団を理解できる
- それぞれの検査には長所と短所があり、利点と限界がある



心理検査結果には**意味**と**限界**がある

- 外的な刺激によって表に出そう、目に見える形にしようとするもの
- どう反応するか、その反応から子どもの「知能」「性格」などの一側面を測ろうとするもの
- 子どもを理解するための「**共通の根拠**」「**ものさし**」を提供するもの

出典：田中ビネー知能検査Vテキスト



① 検査についてミカタ(見方)を知ろう!

- 環境、検査技術、子どものコンディション、測定誤差
- アセスメント結果を**本人の利益**になるように役立てる
- 個人情報の取り扱い
 - アセスメントの目的や結果の利用については、本人や保護者に説明し、**同意**を得て実施



代表的な心理(知能)検査

- **田中ビネー知能検査**(全般的知能水準) → 田中ビネー知能検査V
適用年齢: 2歳~成人
- **ウェスクラー式知能検査**
(全般的知能水準、個人内差) → WISC-IV
適用年齢: 5歳0か月~16歳11か月
- **K-ABC** (認知処理過程、習得度) → K-ABC II
適応年齢: 2歳6か月~18歳11か月
- **DN-CAS**
(認知処理過程、プランニング、注意) → DN-CAS
適応年齢: 5歳0か月~17歳11か月

代表的な心理(発達)検査

- **乳幼児・児童等の発達検査** → 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法
適用年齢: 0歳~4歳8か月
- 新版K式
適用年齢: 0歳~成人
- 新版S-M社会生活能力検査など
適用年齢: 幼児~中学生

それぞれ目的が違います

- 何を測定し、どのように活用するのか → 検査の選定
- 信頼できる情報収集、多面的・総合的解釈
→ 複数検査の組合せ(テストバッテリー)

② 結果を生かして、子どものミカタ(味方)になろう！



- 「WISC-IV」を見てみましょう！
- 「田中ビネーV」を見てみましょう！



「WISC-IV」を見てみましょう！

報告書作成 年 月 日

WISC-IV 検査結果報告書

受検者 氏名： 検査年月日： 年 月 日
 生年月日： 年 月 日 検査者：
 生活年齢： 検査者資格：
 学校等： 所属：

【検査内容（主観）】
 校内委員会や保護者などからの主要な相談内容（主観）をできるだけ簡潔に記す。

【検査時の様子】
 検査時の印象・行動観察、留意時に着ける特徴ある傾向等について記す。

【検査結果】

合成得点	パーセンタイル 順位	信頼区間 (90%)	記述分類
全検査 IQ (FSIQ)			
言語理解指標 (VCI)			
知覚推理指標 (PRI)			
ワーキングメモリー指標 (WMI)			
処理速度指標 (PSI)			

・合成得点と同時にパーセンタイル順位や信頼区間等についても必ず記す（IQ 値のみをそのままだけのように伝えることだけは避けるべきである）。

・信頼区間については 90%と 95%が用意されているが、一般的には 90%を用いる。

・記述分類の表記は、総合的な指標等を含まない、知的発達量での集団内での位置を表していることに留意する。

【備考】
 以前の検査結果や関連する他の心理検査結果等があれば、ここに記す。

【総合所見】

○**全体的な知的発達水準（FSIQ の総括）**
 VCI と PRI の高い値が大きいときは慎重に解釈し記述する。

○**認知面、処理プロセスなどの特徴（指標得点の特徴）**
 ・4 つの指標得点を中心に、その認知構造に特徴があればそれを記す。また、指標得点間に有意差がある場合は、主要な結果について効果出率率等を用いて説明することもある。

・こうしたディスレバランシー比較において IQ79 以下、IQ120 以上は、IQ 水準形を定める。

【支援の方針と内容】
 ・相談内容（主観）に対する、心理アセスメント結果からの回答を記す。
 ・心理アセスメント結果からアドバイスできる具体的な支援の概要（その基本的方針と内容）について記す。

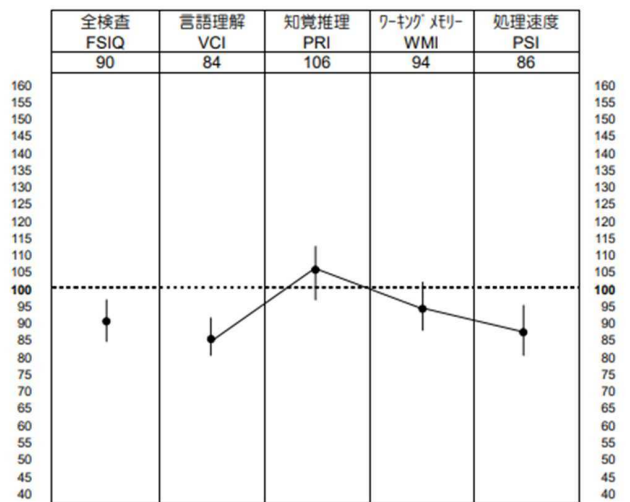
(以上)

- 相談内容
- 検査時の様子
- 検査結果
- 総合所見
 - ・全体的な知的発達水準(FSIQの推定)
 - ・認知面、処理プロセスなどの特徴
(指標得点の特徴)
- 支援の方針と内容

出典：実施・採点マニュアル P6～7
 日本文化科学社のHPテクニカルレポート#2



指標名	略称
全検査IQ	FSIQ
言語理解指標	VCI
知覚推理指標	PRI
ワーキングメモリー指標	WMI
処理速度指標	PSI



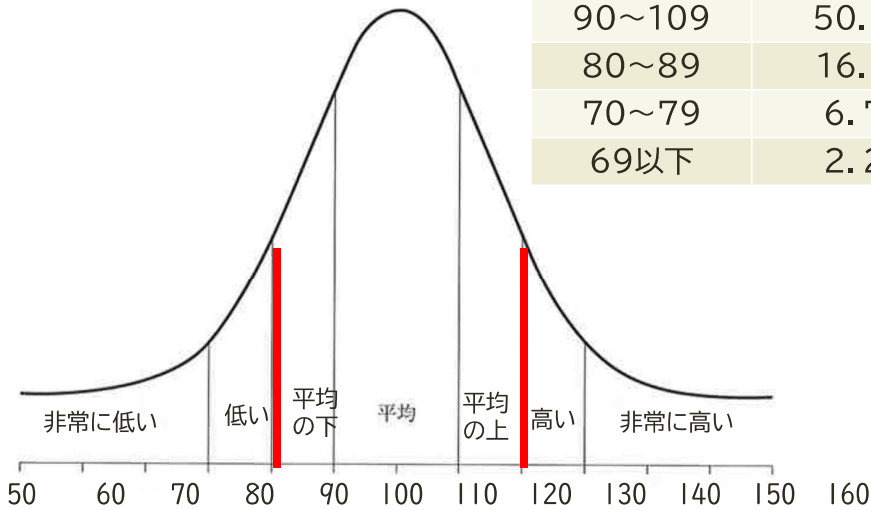
	合成得点	パーセンタイル	信頼区間 (90%)	記述分類
全検査 IQ (FSIQ)	90	25	85-96	平均の下-平均
言語理解 (VCI)	84	14	79-93	低い(境界域) - 平均
知覚推理 (PRI)	106	66	98-113	平均-平均の上
ワーキングメモリー (WMI)	94	34	88-101	平均の下-平均
処理速度 (PSI)	86	18	80-96	平均の下-平均

出典：
 日本文化科学社のHP
 テクニカルレポート#4



合成得点の解釈

合成得点	理論上の割合 (%)	WISC-III ⇒ WISC-IV
130以上	2.2	非常に優れている ⇒ 非常に高い
120~129	6.7	優れている ⇒ 高い
110~119	16.1	平均の上 ⇒ 平均の上
90~109	50.0	平均 ⇒ 平均
80~89	16.1	平均の下 ⇒ 平均の下
70~79	6.7	境界線 ⇒ 低い(境界域)
69以下	2.2	精神遅滞 ⇒ 非常に低い



WISC-IV 理論・解釈マニュアル P90

指標得点の意味

参考：日本文化科学社『日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント』

指標得点名(略記号)	意味 (測定される能力)
言語理解(VCI)	<ul style="list-style-type: none"> ①言語概念形成(語彙・分法など結晶性能力の一部) ②言語による推理力・思考力(流動性能力) ③言語による習得知識(学習の積み重ねなど結晶性能力の一部)
知覚推理(PRI) *WISC-Vでは、 視空間指標と 流動性推理指標	<ul style="list-style-type: none"> ①非言語による推理力・思考力(直感・社会的認知など流動性能力) ②空間認知 ③視覚-運動協応 <p>*WISC-Vでは、視覚処理能力(視空間指標) 課題を見て法則を推理解決する能力(流動性推理指標)</p>
ワーキングメモリー (WMI)	<ul style="list-style-type: none"> ①聴覚的なワーキングメモリー (作業中の一時的記憶保持、整理・変換・操作する能力) ②注意、集中
処理速度(PSI)	<ul style="list-style-type: none"> ①視覚刺激を速く正確に処理する力 ②注意、動機づけ ③視覚的短期記憶 ④筆記技能、視覚-運動協応

WISC-IVの4つの指標からわかること

参考：日本文化科学社『日本版WISC-IV
による発達障害のアセスメント』

指標名(略記号)	意味(測定される能力)
言語理解(VCI)	①言語概念形成(語彙・分法など結晶性能力の一部) ②言語による推理力・思考力(流動性能力) ③言語による習得知識(学習の積み重ねなど結晶性能力の一部)

- 「あれ」「それ」「これ」といった指示語の理解が難しい
- 指示がわからず集団行動ができない
- 音読しているだけ(内容は理解していない)
- 不正確な言い回しをしたり、事実や感情が言葉で説明でなかったりして、誤解されやすい
- 間違っただけの意味で言葉を使うことが多い、会話に参加しづらい
- 日時や場所などの理解・表現が不十分で、トラブルにつながる
- 概念が言葉で表現できない、概念の理解が難しい

…などなど

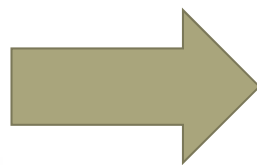


言語理解指標が苦手なタイプの困った



- 言葉の想起が流暢でない
- 説明の要領が悪くて伝わりにくい
- 指示や説明の理解が苦手
- 知識にムラがある
(基本的な知識が欠如している)

支援例は
こんな感じ



- 平易な言葉でシンプルな指示
- できるだけ短く、ゆっくり、はっきり
- 指示が伝わったかどうか、こまめに確認
- 指示を理解できてないなら、何度か繰り返す
- 全体指示が理解できない時は、個別に指示
- 絵や図、イラスト、具体物などで伝える
- 約束は紙に書く
- 本の読み聞かせや、日常で物の名前を学習
(言葉を理解して広げることが大事)

指標名(略記号)	意味 (測定される能力)
知覚推理(PRI) *WISC-Vでは、 視空間指標と 流動性推理指標	①非言語による推理力・思考力(直感・社会的認知など流動性能力) ②空間認知 ③視覚-運動協応 *WISC-Vでは、視覚処理能力(視空間指標) 課題を見て法則を推理解決する能力(流動性推理指標)

- たくさん表示があると、わからなくなる
- 形を判別したり、組み合わせで構成したりするのが苦手
- 図形や展開図、見取り図を描くのが難しい
- 漢字の習得が難しく、読み書きが苦手
- 場所や方角を間違え、トラブルにつながる
- 整理整頓が苦手
- 図形問題や地図が苦手

…などなど

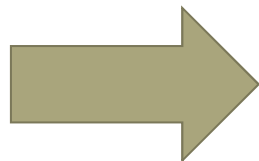


知覚推理指標が苦手なタイプの困った



- 図形認知、定規を使うことが苦手
- 絵を描くことが難しい
- 片づけが苦手
- グラフや地図の読み取り、作成が困難
- 新奇な課題や応用問題に対して、柔軟・計画的に解決するのが困難

**支援例は
こんな感じ**



- 言葉で、ひとつずつ順番に説明
- 頭の中だけで考えず、模型などを活用
- 図形の特徴を言葉で説明
- 場の状況や他人の気持ちを簡素な言葉で
- ごっこ遊びやロールプレイで対人行動を練習
- 上下左右、順序、目印などで言語化して確認
- 物をしまう場所ごとに色分け
- 物自体に対応した目印をつけて
- ルールは言葉で丁寧に説明

指標名(略記号)	意味 (測定される能力)
ワーキングメモリー(WMI)	①聴覚的なワーキングメモリー (作業中の一時的記憶保持、整理・変換・操作する能力) ②注意、集中

- 聞き間違いがある、聞いたことをすぐに忘れる
- 話を最後まで集中して聞けない
- 簡単な暗算ができない
- 友だちの名前が覚えられない
- 約束を忘れてしまいトラブルにつながる
- 少しの雑音でも注意がそれてしまう
- 板書に時間がかかる
- 忘れ物が多い

…などなど

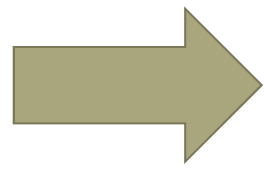


ワーキングメモリー指標が苦手なタイプの困った



- 遂行中の活動についてゴールや段取りをど忘れする
- 口頭による指示は、聞き間違いや聞き漏らしが多い
- 同時に複数の処理や作業をすることが苦手
- 忘れ物や紛失が多い
- 音韻が非流暢、特殊表記やカタカナ習得が困難

支援例は
こんな感じ



- 話し手に注意を向けてから話す
- 簡単な言葉でシンプルに伝える
- 何度か指示を繰り返す
- 個別に指示する
- 絵や図、文字や立体物を組み合わせて説明
- 物事に意味づけをして覚えやすく
- 途中の過程を紙に書きながら計算
- メモを取るように
- 挨拶や言い回しをロールプレイで練習

指標名(略記号)	意味 (測定される能力)
処理速度 (PSI)	①視覚刺激を速く正確に処理する力 ②注意、動機づけ ③視覚的短期記憶 ④筆記技能、視覚—運動協応

- 書いたり、音読したり、計算したりするのが遅い
 - 書く時の姿勢や筆記用具の使い方がぎこちない
 - 一度混乱すると立て直すことが苦手
 - ペースがゆっくりしていて、切り替えが苦手
 - 授業の準備が間に合わない、時間内に課題が終わらない
 - 文字を書き写すのが苦手
 - 形の似ている漢字を読み間違える
 - せかされると、ミスが増えたり、雑になったりする
- …などなど

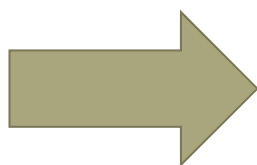


処理速度指標が苦手なタイプの困った

- 作業が遅い
- 書字の困難
- 素早く正確にすることが苦手
- 順序よく処理することが難しい
- 課題遂行中に集中や意欲が途切れる



支援例は
こんな感じ



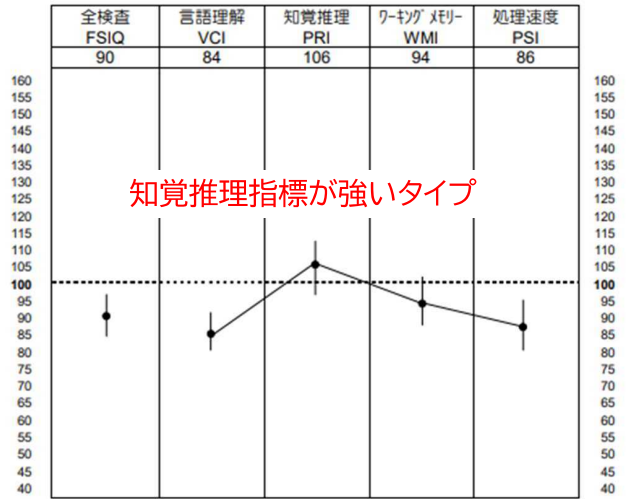
- 時間を十分に取る
- 文字を読みやすい大きさにする
- 補助具などを使用し、筆記用具を使いやすく
- 書く負担を減らす
- 見本をできるだけ近くに置いて書き写す
- ICTを上手に活用
- 時間配分やスケジュールの立て方を工夫
- 優先順位を考え、課題を厳選する
- 量ではなく、質を評価する

具体例を見てみましょう

特徴：直感やイメージで理解できても、それを表現することが苦手

【得意なところ】 ↑
知覚推理

【苦手なところ】 ↓
言語理解
ワーキングメモリー
処理速度



知覚推理が反映する認知面の強さを活かす

言語理解・ワーキングメモリー・処理速度が反映する認知面の弱さを補う

	合成得点	パーセンタイル	信頼区間 (90%)	記述分類
全検査 IQ (FSIQ)	90	25	85-96	平均の下-平均
言語理解 (VCI)	84	14	79-93	低い(境界域)-平均
知覚推理 (PRI)	106	66	98-113	平均-平均の上
ワーキングメモリー (WMI)	94	34	88-101	平均の下-平均
処理速度 (PSI)	86	18	80-96	平均の下-平均

出典：日本文化科学社HP
テクニカルレポート#4



課題

- 言葉による説明の理解や知識の習得でつまづきやすい
- 一斉への指示や指導では、人より遅れやすいので、学習意欲が下がりがち。

対策

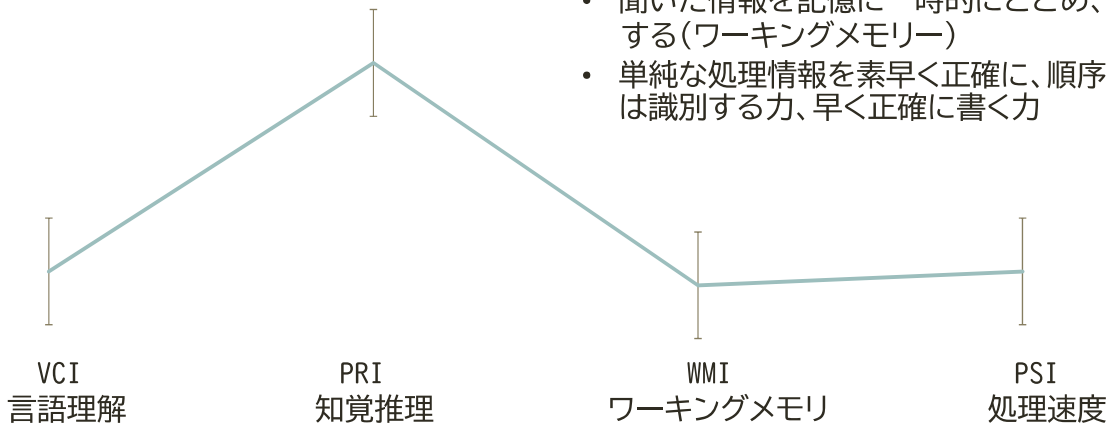
- 指示や説明では、短く簡潔に行い、図表や絵などの視覚的な支援を
- 説明の前に新出語彙やキーワードを確認するなどの予習があると自信に

▶活かしたい強さ

- 非言語(視覚情報)を基に推理したり、新規情報に基づいて課題を処理したりする力(知覚推理、視覚処理)

▶補いたい弱さ

- 言葉が意味する内容や性質を考える力(言語概念形成)、言葉を使って推論する力(言語性推理)、言葉による習得知識(語彙の知識、一般知識)
- 聞いた情報を記憶に一時的にとどめ、その情報を操作する(ワーキングメモリー)
- 単純な処理情報を素早く正確に、順序よく処理、あるいは識別する力、早く正確に書く力



詳しくは、「日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント」P107~119を参照

「田中ビネーV」を見てみましょう！

2歳0ヶ月～13歳11ヶ月

- 生活年齢(CA)、精神年齢(MA)、基底年齢、 知能指数(IQ)
- 数唱の結果(記憶のスパン)
- 行動観察
- 年齢級ごとの検査項目、年齢尺度
- その年齢の約6～7割の子どもが合格通過した問題で構成

出典：田中ビネー知能検査Vテキスト



14歳0ヶ月以上

- 生活年齢(CA)
- 行動観察
- 偏差値指数(DIQ)
- 4つの領域別
 - 「結晶性」
 - 「流動性」
 - 「記憶」
 - 「論理推理」
- 領域別DIQ、総合DIQ、下位検査別評価点

結晶性領域(抽象語・概念の共通・文の構成・ことわざの解釈・概念の区分)

→年齢によって積み重ねられる知恵や判断力

流動性領域(積木の立体構成・マトリックス)

→計算や情報を処理する力や新しい環境に適応するための問題解決力

記憶領域(語の記憶・場面の記憶・数の記憶・数の逆唱)

→一時的に何かを記憶する力

論理推理領域(関係推理・数量の推理)

→物事を道筋立てて考える力

出典：田中ビネー知能検査Vテキスト



具体例を見てみましょう

(例)田中ビネー知能検査Ⅴの結果(5歳児)

【検査結果】

- ・ **基底年齢**:3歳
- ・ **精神年齢**:4歳7か月 **IQ**:81

【検査結果の診断】

- ・ 3歳級4歳級 数の問題 不通過
- ・ 3歳級4歳級 絵の問題 不通過

ものの名前が
自分なりの理解？

2歳級は
全問通過

不通過だったのは何が理由？

今後はどこを目標に進める？



数は理解しているが、
分解は難しそう？

1対1対応、あやふや？

語彙が少ない？
経験不足？
未学習？

(例)田中ビネー知能検査Ⅴの結果(5歳児)

【検査結果の診断】

- ・ 5歳級 絵の問題 不通過
- ・ 6歳級 場面への対応を考える問題 不通過
- ・ 7歳級 言葉での説明や、単語を思い浮かべる問題

絵そのものが
思い浮かばない？
経験不足？

場面が
思い浮かばない？

知っている言
葉が少ない？

(例)田中ビネー知能検査Ⅴの結果(5歳児)

【検査結果の診断】

- ・ 5歳級 絵の問題 不通過
- ・ 3歳級5歳級6歳級 図形を描く問題 不通過

筆圧↓
描くことや
形を捉える
こと苦手？

見え方の苦手さ？
経験不足？
未学習？

4歳級 1/2の合格 5歳級 1/6の合格

生活年齢(4歳7か月)の問題は、
本人にとっては難しいのかも…



その他の検査



- 多層指導モデルMIM(ミム) → 促音、拗音、長音などの特殊音節に焦点を当てたもの
- STRAW-R(ストロー・アール) → 小学1年生～高校3年生 音読速度 漢字音読年齢 読み書きの習熟度
- LCSA(エルシーエスエー) → 学齢版(小学1年生～4年生) 文や文章の聴覚的理解
語彙や定型句の知識 発話表現力 ことばの想起の流暢さ
読み書き領域の課題
- LC-R(エルシーアール)
【LCスケールの継続版】 → 就学前版(0～6歳) 乳幼児の言語コミュニケーション発達検査
「言語表出」「言語理解」「コミュニケーション」のLC年齢とLC指数
- WAVES(ウェーブス) → 小学生用 見る力を育てるビジョン・アセスメント
視知覚・目と手の協応・眼球運動に対する検査とトレーニング教材

参考資料

日本文化科学社 日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント

日本文化科学社HP テクニカルレポート

田中教育研究所 田中ビネー知能検査Vテキスト

明日から、子どもの「ミカタ」が変わるかも…!?

